

株式会社ケー・エフ・シー

2025年3月期第2四半期 決算説明資料

2024年11月20日



I . 決算概要・業績予想	P.3
II . 経営戦略	P.14

2025年3月期第2四半期 実績総括

■ 2025年3月期第2四半期 決算

売上高 116.7億円(前期比7.6%増) 経常利益 1.3億円(前期比57.9%減)

- ・ 高速道路リニューアルや土木耐震などの工事物件が順調に進捗、またトンネル掘削資材の受注増加により売上拡大
- ・ 建設事業において一部大型工事物件の追加契約分を先行して着手していることにより、利益率が低下
- ・ 完成工事原価の増加や人件費をはじめとした販管費の増加により、経常利益は前年同期比で減少

■ 2025年3月期 業績予想(修正なし)

売上高 260億円(前期比3.7%増) 経常利益 14億円(前期比18.6%減)

- ・ 商品販売および手持工事の堅調な推移、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大により売上高は増加する見通し
- ・ 原材料価格や運送費の高騰、新中期経営計画の各施策への取り組み強化により減益の見通し

■ 新中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉

2027年3月期目標 売上高270億円 経常利益16億円

- ・ 今年度より始まる新中計〈2025年3月期～2027年3月期〉は、次の成長ステージへの事業基盤を拡充する期間と位置付け、DX・人的資本経営・成長投資の拡大により資本効率向上に取り組む
- ・ さらなる組織力強化と生産性向上を図りながら、中長期的な企業価値の向上を目指す

決算概要・業績予想



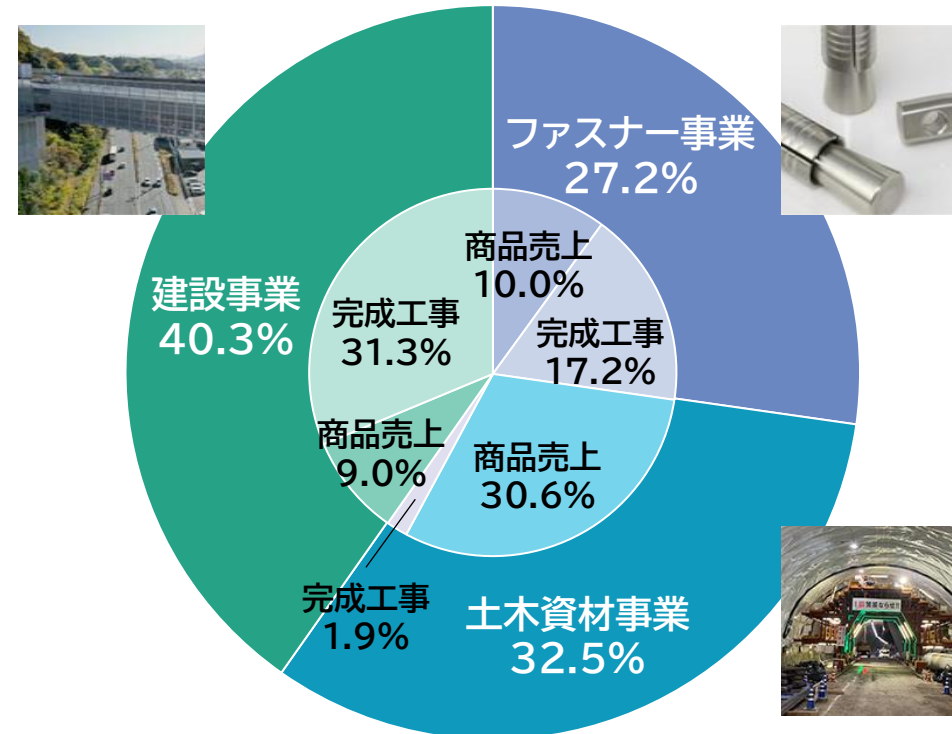
1. ケー・エフ・シーグループ概要

- 自社工事だから出来る現場視点での顧客ニーズを捉えた製品・技術開発による他社との差別化
- オーストリアからNATMを導入、独自技術に発展させたロックボルトや遮水シートなどトンネル掘削資材のトータル提案によりロックボルト販売全国シェア約60%（※自社調べ）
- 現場ニーズを掴み、技術提案力を元に独自工法を開発、元請受注力を高め、全国での自社施工体制を構築。新設工事から補修工事までをこなし、緊急工事対応で顧客の信頼を得る

売上構成

（連結：2025年3月期第2四半期 116億円）

※ セグメント間取引の調整をしております



建設事業

- トンネル内装及び耐火工事及び遮音壁設置工事等の環境工事の設計・施工
- 防護柵設置工事及び落下物防止工事等安全施設工事の設計・施工
- トンネル補強工事及びビル外壁補修工事等リフレッシュ工事の設計・施工
- トンネル内照明及び防災等設備工事並びに橋梁部設備関連工事の設計・施工

ファスナー事業

- 各種「あと施工アンカー」類の販売・施工
- 鋼材及び各種金物の製作・販売
- 耐震関連資材の販売
- 電動工具類及び付属ビットの販売
- 建築物等の耐震関連工事の設計・施工
- 道路及び鉄道橋脚等の耐震関連工事の設計・施工

土木資材事業

- ロックボルト等トンネル支保材料の製造・販売
- ドライモルタル等ロックボルト用定着材の販売
- トンネル用防水シート及び附属品並びに溶着機等施工機械の販売
- ウレタン注入剤等トンネル用岩盤固結剤及び注入機等施工機械の販売並びにレンタル
- 遮水シート、防水シートの輸入販売、設計、施工

2. 2025年3月期第2四半期決算実績

①決算概要総括

業界環境

- 公共建設投資額の堅調な推移やコロナ禍の終息傾向による工事進捗の遅れ解消など、良好な受注環境が見込まれるが、物価上昇の影響や「建設業の2024年問題」をはじめとする業界の課題は依然として継続しており、リスクの内在する不透明な事業環境は継続

売上面

- 土木耐震関連工事の受注増加(ファスナー)、補助工法の資材販売が好調(土木)、元請工事の受注、子会社における資材販売が好調(建設)により増収

連結売上高 11,676百万円 ※セグメント間取引調整後の金額 前期比 +820百万円 +7.6%	ファスナー事業	3,308百万円	+7百万円 +0.2%	■ 受注環境が堅調に推移したことに加え、手持工事が順調に進捗 ■ 上下水道施設をはじめとした土木耐震補強工事の増加
	土木資材事業	3,945百万円	+246百万円 +6.7%	■ トンネル掘削補助工法の資材販売が東日本を中心に好調に推移 ■ 技術提案による特殊ロックボルトや独自技術を活用した防水シートの販売、補修工事も寄与
	建設事業	4,882百万円	+623百万円 +14.7%	■ 高速道路リニューアル工事等の工事物件が順調に進捗 ■ 子会社における資材販売が好調に推移

利益面

- 販売価格の改定が進捗しつつも、工事原価の先出しや人件費の増加により減益

連結経常利益 138百万円 前期比 △190百万円 △57.9%	ファスナー事業	121百万円	△95百万円 △43.9%	■ 原材料仕入価格の高騰 ■ 人件費の増加
	土木資材事業	245百万円	+173百万円 +239.6%	■ 原材料価格の高騰を補う販売価格の改定が進捗 ■ 独自製品を中心とする技術提案資材の販売が好調
	建設事業	△228百万円	△269百万円 － %	■ 工事原価の先出しによる利益の低下 ■ 原材料価格、労務費の高騰 ■ 管理者不足による社員の採用に係る原価増

2. 2025年3月期第2四半期決算実績

②セグメント毎実績

ファスナー事業

- 官民建築耐震関連工事がコロナ禍からの脱却により顕著に発注され売上が増加
- 土木耐震補強工事も堅調に受注し増加(前期比7.0%増加)
- 販売は前期並み(前期比0.1%減少)

<主要施工・納品実績>

- ・ 北海道管内道路照明維持補修ほか一連工事 フェイルセーフ製品
- ・ 赤根トンネル フェイルセーフ製品
- ・ 東日本高速道路 本条児玉～水上間 中分防護柵用アンカー
- ・ 令和5年度小和瀬発電所導水路改良工事
- ・ 水元給水所耐震補強工事
- ・ JA福山耐震補強工事
- ・ 和白水処理センター B系最終沈殿池耐震補強工事

土木資材事業

- トンネル掘削補助工法資材の受注拡大(前期比8.7%増加)
- ロックボルト補修工事の受注増加(前期比51.2%増加)
- 重金属対策の新規商材が伸長(前期比340%増加)
- 全国的に新設トンネル発注物件は減少傾向
- 鋼材等、原材料、運送費のコスト高騰は継続も価格転嫁進む

<主要納品実績>

- ・ 北海道新幹線トンネル
- ・ 新潟県朝日温海トンネル
- ・ リニア新幹線トンネル
- ・ 神奈川県横浜環状南線トンネル
- ・ 和歌山県法事トンネル補修
- ・ 広島県岩国トンネル
- ・ 大分県日田山国トンネル

建設事業

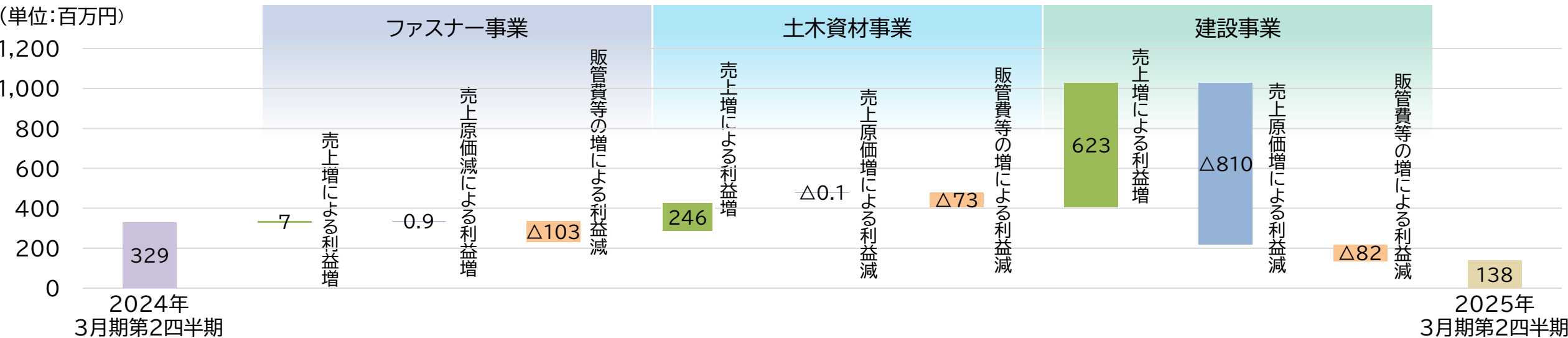
- 遮音壁工事の新規受注
- トンネル覆工補強工事をJVにて施工中
- 構造物補修工事、トンネル設備工事の受注
- 人件費上昇に伴う労務単価の上昇
- 原材料、運搬費等仕入れコストの高騰

<主要施工実績>

- ・ 長野自動車道(特定更新等)岡谷トンネル覆工補強工事
- ・ 仙台東部道路 館腰橋補修工事
- ・ 首都圏中央連絡自動車道 幸手西遮音壁工事
- ・ 令和4年度 中国自動車道(特定更新等)千代田高速道路事務所管内構造物補修工事
- ・ 令和4年度 中国自動車道 山口高速道路事務所管内(西地区)構造物補修工事
- ・ 中央自動車道 土岐IC～小牧東IC間コンクリート構造物補修工事(2021年度)
- ・ 山形自動車道 笹谷トンネル照明設備更新工事

2. 2025年3月期第2四半期決算実績

③経常利益増減要因分析



ファスナー事業

- + 7 土木耐震物件の増加、防護柵設置工事をはじめとした安全施設工事が増加
- + 0.9 売上原価は前年同期比並みに推移
- △103 人件費の増加、営業活動の活発化による営業費の増加

土木資材事業

- + 246 ロックボルトおよび補助工法の資材販売が順調に推移、ロックボルト補修工事の受注増加
- △ 0.1 売上原価は前年同期比並みに推移
- △ 73 人件費の増加、売上増に伴う運送コストの増加

建設事業

- + 623 高速道路リニューアル工事等の物件が順調に進捗、子会社における資材販売が好調
- △ 810 原価の先出しによる増加、原材料仕入価格や労務費単価の高騰による増加
- △ 82 人件費の増加、設備投資の増加

2. 2025年3月期第2四半期決算実績

④貸借対照表（B/S）（連結）

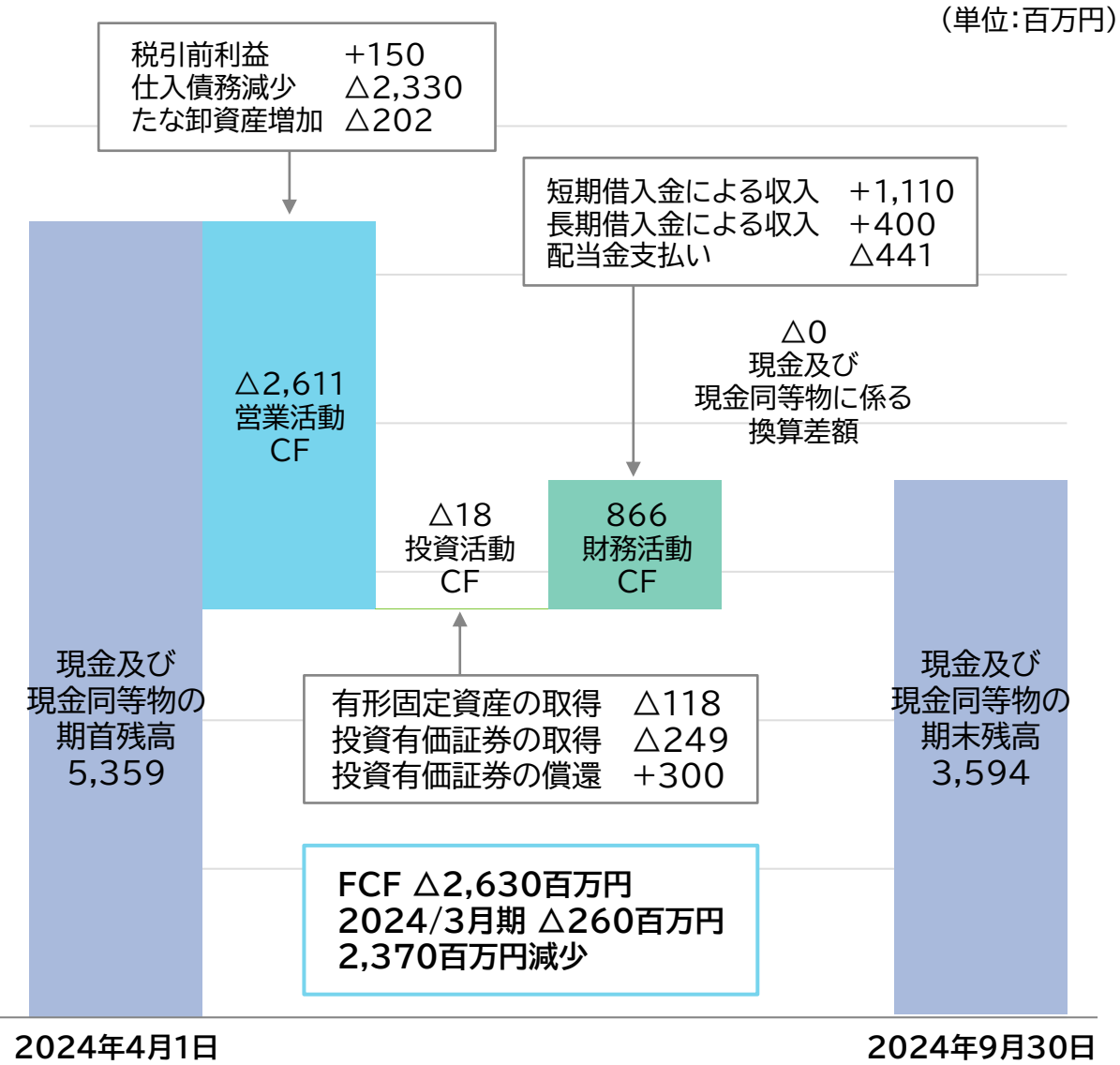
（単位：百万円）

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減額	コメント
流動資産	17,476	18,325	848	
現金及び預金	3,285	2,794	△490	
受取手形及び 完成工事未収入金等	7,060	9,919	2,858	■ 元請物件の順調な進捗による完成工事未収入金の増加
その他流動資産	7,131	5,611	△1,519	■ 有価証券の償還による減少
固定資産	10,194	9,725	△468	
有形固定資産	4,910	4,880	△30	
無形固定資産	350	311	△38	
投資その他の資産	4,933	4,533	△400	
資産合計	27,671	28,050	379	
負債合計	8,135	7,796	△338	
（借入金残高）	725	1,800	1,075	■ 元請物件の進捗による資産需要の増加
純資産合計	19,535	20,254	718	
負債純資産合計	27,671	28,050	379	

2. 2025年3月期第2四半期決算実績

⑤キャッシュ・フロー計算書（連結）

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	733	△2,611	△3,345
投資活動による キャッシュ・フロー	△508	△18	489
財務活動による キャッシュ・フロー	△131	866	997
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1	△0	△2
現金及び現金同等物の 増減額	95	△1,765	△1,860
現金及び現金同等物の 期首残高	5,989	5,359	△630
現金及び現金同等物の 期末残高	6,085	3,594	△2,490



3. 2025年3月期業績予想(修正なし)

①業績予想のポイント

売上面

■ コロナ禍において生じた工事発注・進捗の遅れ解消、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大、工事受注残の堅調な推移により増収

連結売上高 26,000百万円 前期比 +930百万円 +3.7%	ファスナー事業	8,800百万円	+1,068百万円 +13.8%	- ニーズに対応する商品の提案営業の強化 - RMAの新規市場への拡大・拡販 - 人手不足・省力化対策など高付加価値商品の販売拡大
	土木資材事業	7,650百万円	△546百万円 △6.7%	- 全国的に新設トンネル発注物件が減少 - 独自工法・資材を活かした補助工法の受注強化 - 技術提案商材・新規商材・トンネル補修工事の受注強化
	建設事業	9,550百万円	△580百万円 △5.7%	- 工期長期化による管理者拘束により新規物件の受注に制限 - 元請工事(構造物補修工事、遮音壁工事)、トンネル補修補強・設備工事等の受注強化

利益面

■ 原材料価格や運搬費の高騰は継続、また「建設業の2024年問題」に対応すべく人件費が増加(共通)が見込まれ減収

連結経常利益 1,400百万円 前期比 △320百万円 △18.6%	ファスナー事業	670百万円	△51百万円 △7.2%	- ニーズに対応する商品の提案営業の強化 - RMAの新規市場への拡大・拡販 - 設置既存アンカーに対する調査業務と改修方法の提案などソリューション販売の強化
	土木資材事業	300百万円	△190百万円 △38.7%	- 原材料価格、運送コストの高騰 - 販売価格への適正な転嫁 - 技術提案商材・新規商材による収益改善
	建設事業	430百万円	△79百万円 △15.6%	- 受注競争の激化による工事採算悪化の懸念 - 原価の見直しによる適正な利益率への改善 - 補修工事現場設計変更による追加利益の確保

3. 2025年3月期業績予想

②セグメント毎業績予想ポイント

ファスナー事業

- 土木耐震補強工事の堅調な発注(受注は前期比7%増加、今後も増加傾向は継続)
- 独自工法の順調な受注と進捗(前期比31%増加を想定)
- 価格改定による適正価格の変更
- 民間建築耐震工事の設計検討業務の増加
- 人手不足問題、省力化に対するICT技術への取組
…インフラ設備における点検業務の省力化に注力



土木資材事業

- 技術提案商材・新規商材の受注強化
- 独自工法・資材を活かした補助工法の受注強化
- トンネル補修工事、環境対策、重金属対策の受注強化
- 原材料価格、運送コスト高騰(前期比3%増加)が見込まれるが、適正な価格転嫁や購買活動の強化により、コスト高への対応を進める
- 多発する自然災害復旧等による発注遅れの懸念



建設事業

- 全国的なインフラ補修・補強工事の発注は継続
- 元請受注の増加に向けた取り組みを推進
- 原材料価格等コスト、労務単価の高騰
- 業界全体の施工管理者不足に対応し、計画的かつ積極的な社員採用(目標3名)・社員教育・資格取得支援(資格取得目標5名)を推進

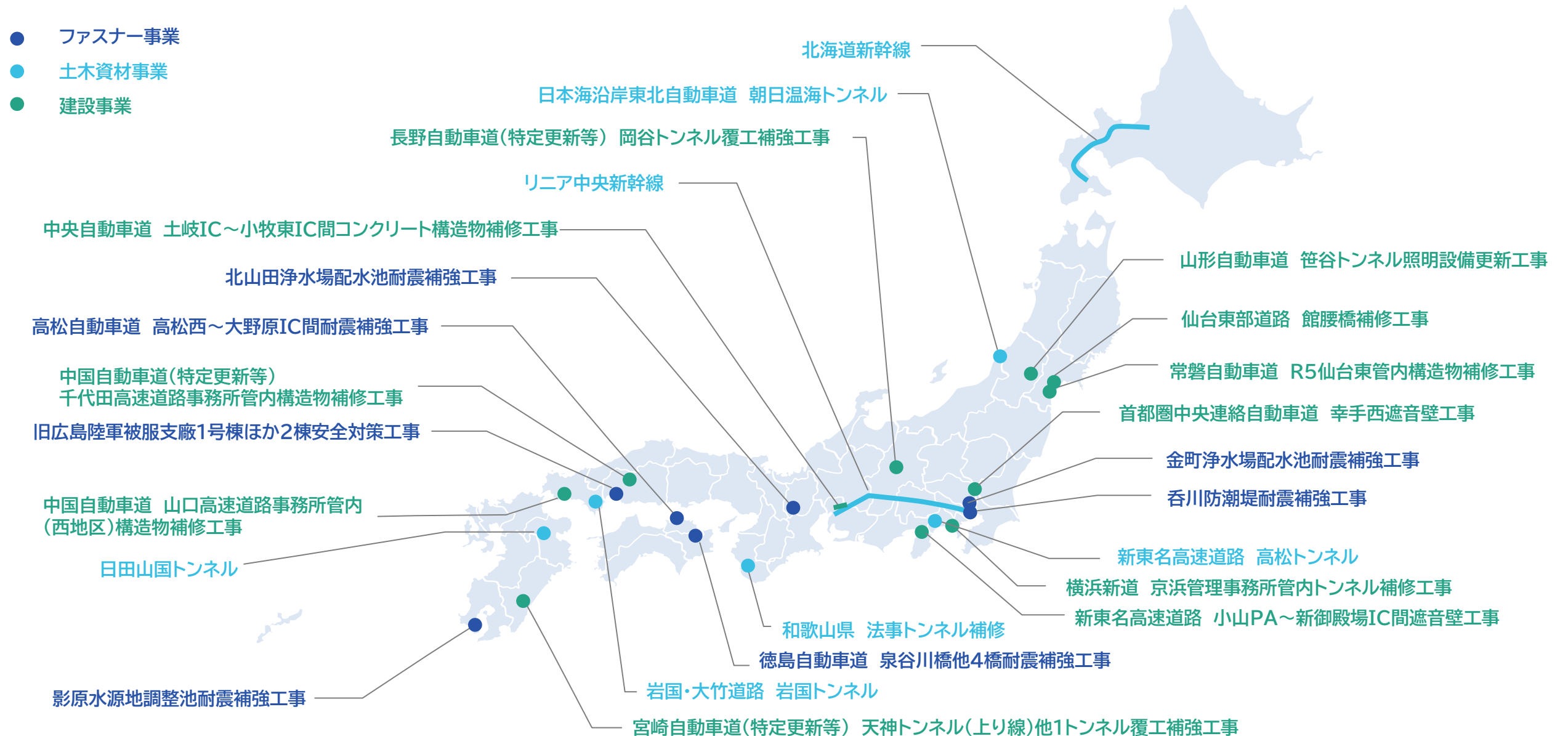
(連結子会社アールシーアイ)

- 西日本エリアを中心に鉄道橋脚一面耐震補強工事の需要拡大
- 道路橋脚一面耐震補強工事の受注強化



3. 2025年3月期業績予想

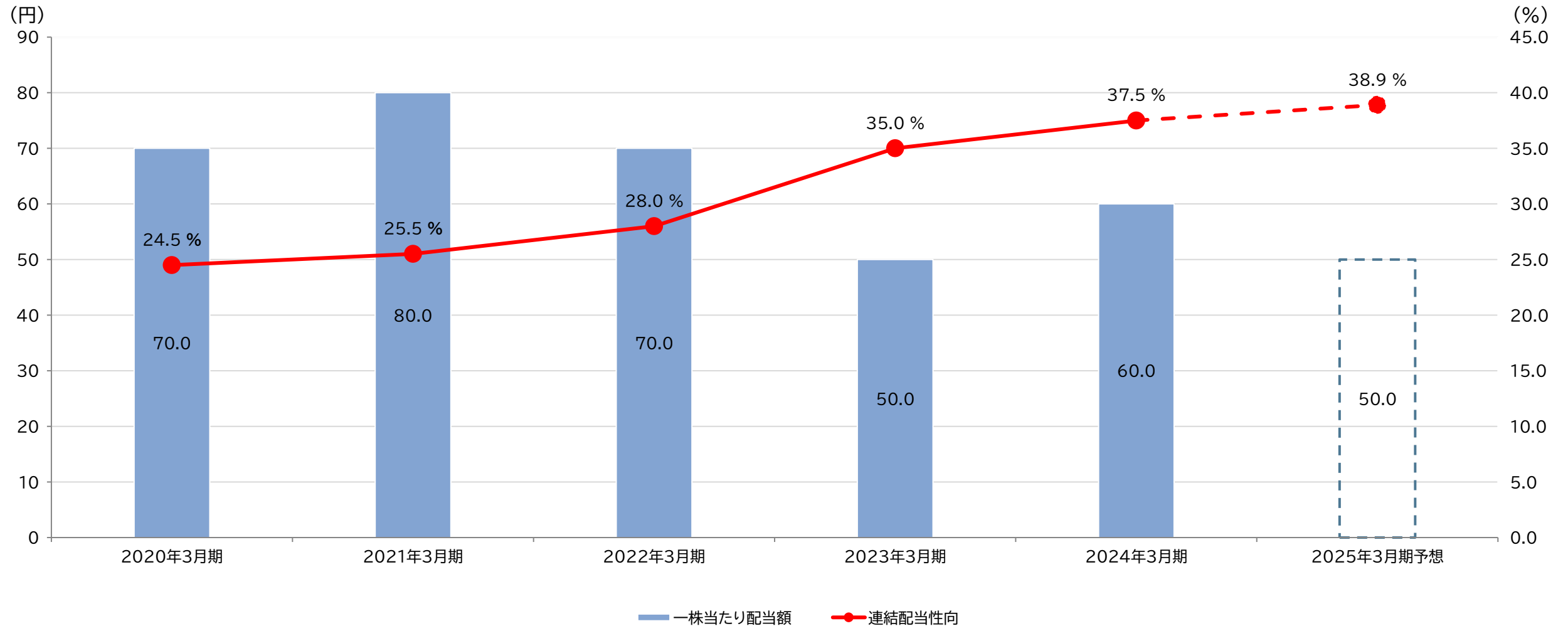
③主要物件の状況



4.株主還元・配当方針

配当推移

- 強固な財務基盤を維持しつつ、安定的かつ継続的な利益還元を重視することを基本とし、株主還元の充実を目指します
- 中期的目標は、連結配当性向40.0%とします



Ⅱ.経営戦略



事業環境認識①

■ 建設市場を取り巻く環境

建設投資

- 2025年度建設投資は前年度比1.1%増の74兆8,800億円の見通し(建築:49兆4,900億円(前年度比1.6%増)、土木:25兆3,900億円(前年度比0.1%増))で政府と民間ともに投資は底堅く推移。前年度より伸び率は縮小するものの、建設投資全体としては引き続き堅調な投資が継続
- 2025年公共事業関係費(概算要求)は18.9%増の6兆2899億円(要求額に足元の価格動向を織り込み)
 - ⇒ 今後も建設業界は好調な業況が推移すると見込まれるが、地政学リスクや物価上昇、金融資本市場変動等の影響に十分留意が必要

資材価格動向

- 原材料・エネルギー価格は高水準で高止まり、今後も円安や海外情勢の影響によりさらに高騰の可能性
 - ⇒ 価格転嫁は一部進むも、柔軟かつ適切な価格転嫁

建設就業者動向

- 建設技術者、技能労働者の慢性的不足による労務単価は過去最高
- 2012年以来、建設業入職率は離職率を上回っていたが、直近の2023年は逆転。建設技能者の高齢化問題の解消も進んでいない
 - ⇒ 魅力ある業界への変革が急務(長時間労働の是正や給与体系の見直し)、また現状の労働者不足解消を打開するためには、生産性の向上や多様な人材の積極的雇用への取り組みも重要

その他

- 建設業界におけるデジタル活用は進むが、まだまだ発展途上
 - ⇒ 確かな現場ニーズを踏まえた建設DX、省力化、BIM・CIM対応に向けた積極投資
- サステナビリティの社会ニーズに対応した技術開発や新規事業の創出
 - ⇒ 成長エンジンである継続的な「新規事業の創出」の実現
 - ⇒ 気候変動リスクの軽減(カーボンニュートラル)に寄与する技術開発
 - ⇒ 持続的成長に向けた投資戦略の明確化(M&A、アライアンスの活用)

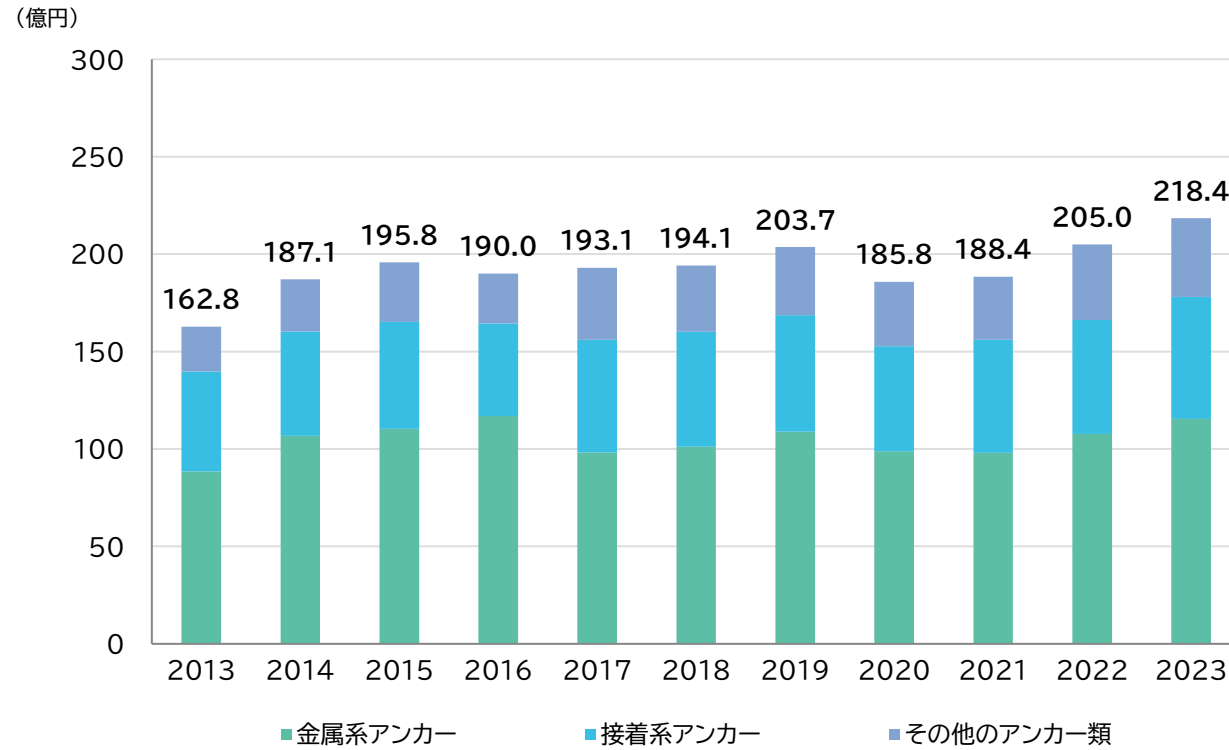
1. 事業環境認識

事業環境認識②

あと施工アンカーの市場動向

- あと施工アンカーの販売実績は増加傾向
 - ・ 一般流通品の鈍化により、前年に対し出荷量は減少
 - ・ 価格転嫁がすすんだことにより、販売実績は出荷額ベースで増加
 - ・ コロナ禍からの脱却で民間の建築耐震補強工事の発注量が増加

あと施工アンカーの販売額推移

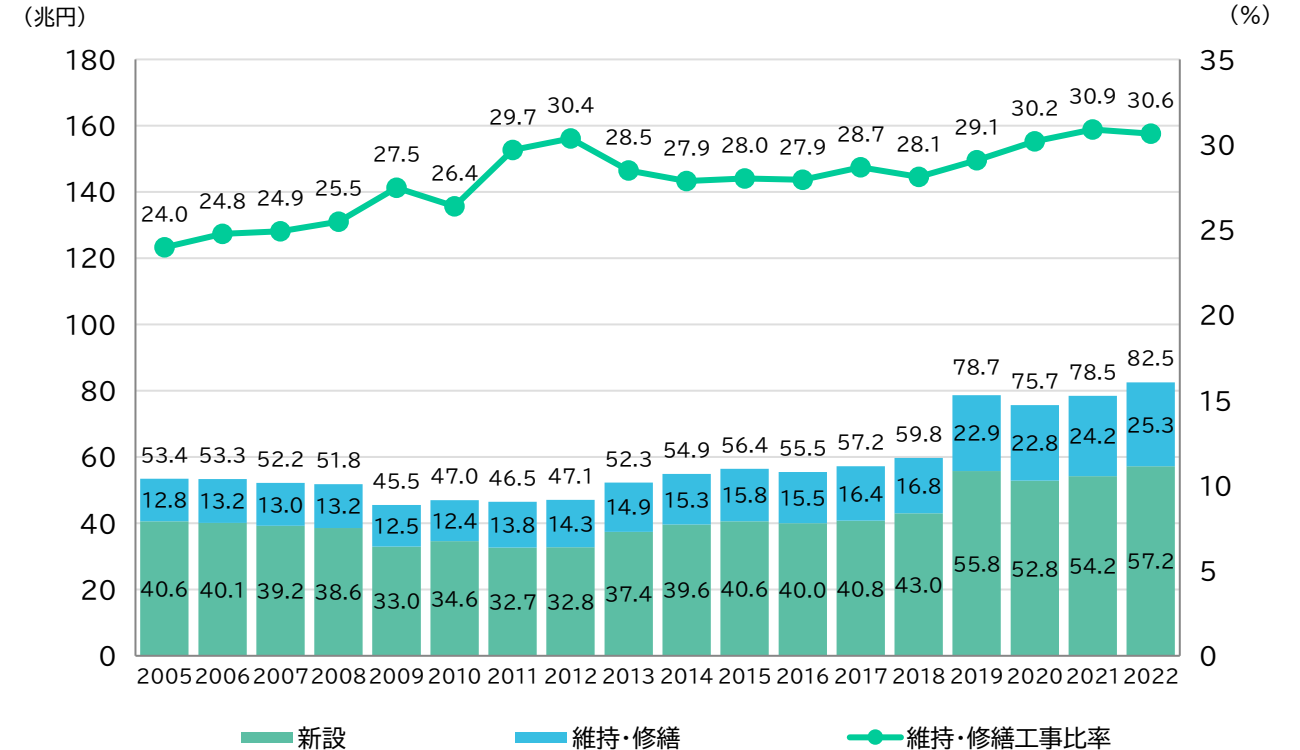


(出所) (一社)日本建築あと施工アンカー協会データより当社作成

維持修繕工事の市場動向

- 社会資本の老朽化を背景に維持修繕工事は増加傾向
 - ・ 2022年度は25.3兆円と施工高全体に占める割合は約30%となっている
 - ・ 当社においても市場環境の変化に合わせ、新設トンネルから補修に工事体制をシフトし、受注の拡大を図る(前年より対応部隊を設立)

維持修繕工事の施工高推移

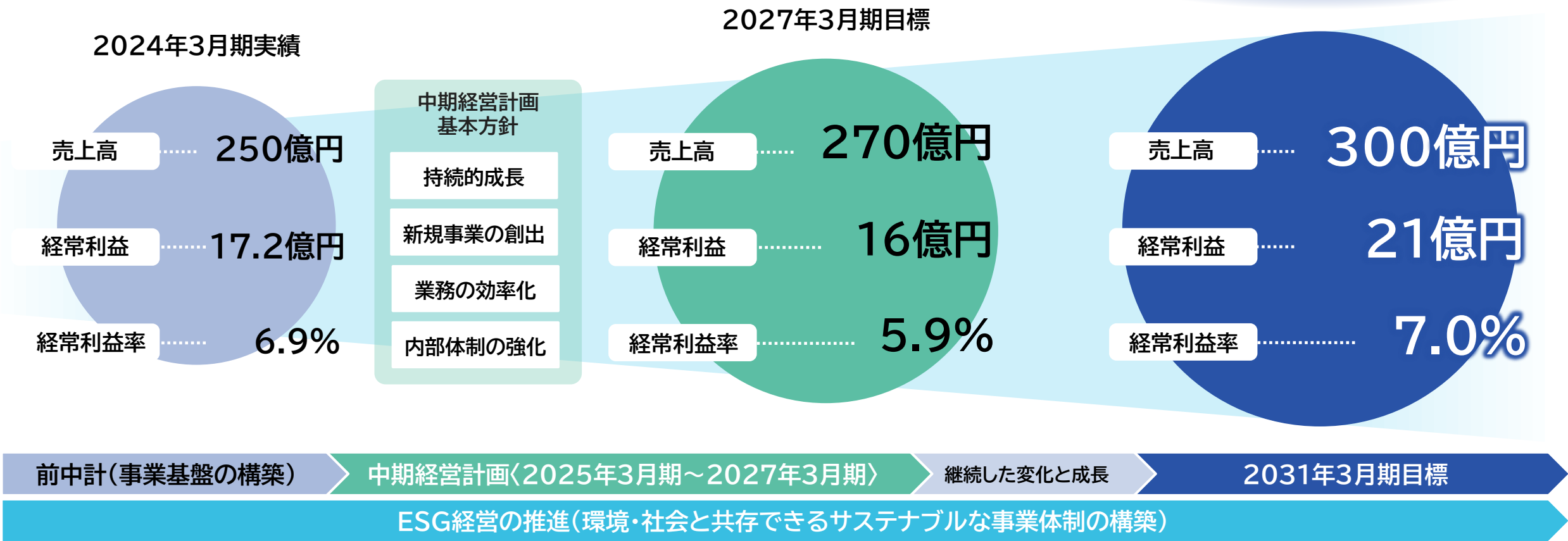


(出所) 国土交通省「建設工事施工統計調査」データより当社作成

2. 中期経営計画骨子

- 時代の要請に応え、起こりうる変化に適応し、持続的に成長可能な企業を目指します
- 中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉では、前中計で築いた土台をより強固にし、次の成長ステージの事業基盤を拡充する期間と位置付け、DX・人的資本経営・成長投資の拡大により資本効率を向上させ、さらなる組織力強化と生産性向上を図りながら、中長期的な企業価値の向上に邁進してまいります。

技術の力で人と未来を支える



3.中期経営計画

	前中期経営計画	中期経営計画<2025年3月期－2027年3月期>		
	2024年3月期 実績	2025年3月期 目標	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
売上高 (百万円)	25,070	26,000	26,500	27,000
経常利益 (百万円)	1,720	1,400	1,550	1,600
経常利益率 (%)	6.9%	5.4%	5.8%	5.9%
配当性向 (%)	37.5%	38.9%予想	40.0%	40.0%

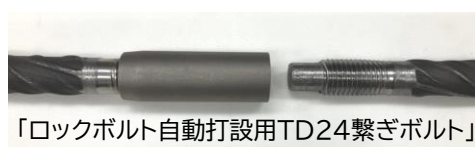
4. 経営戦略トピックス

研究開発① トンネル掘削工事の自動化

- トンネル工事の自動化に向けたロックボルトや補助工法の資材・施工システムを開発
- 作業員が切羽や高所などの危険箇所へ接近することなく安全に施工できる技術
- 苦汁作業の低減

ロックボルト自動打設関連の製品・技術

- ロックボルト自動打設用TD24繫ぎボルト:機械施工でも簡単に連結可能な3m+3mのロックボルト連結システムを開発したことで、ロックボルト長6m打設を実現
- MASHボルト:異形棒鋼の片端に特殊ヘッドを加工することでナットを必要としないロックボルトを開発(共同開発:株式会社フジタ)
- RPE施工の自動化システム:RPEロックボルトの挿入・注水作業を機械化するためにドリルジャンボのガイドシェルに取り付けるユニットおよび施工システムを開発中(共同開発:株式会社熊谷組)
- バレットカプセル:ロックボルト打設用に削孔されたボアホールに、エア圧送できるセメントカプセルと圧送システムを開発中



「ロックボルト自動打設用TD24繫ぎボルト」



「MASHボルト」



「RPE施工の自動化システム」
試験施工状況

補助工法自動打設関連の製品・技術

- AGF-プッシュコネクト:AGF鋼管の接続をネジ式ではなく、ソケット挿入とすることでドリルジャンボのガイドシェルでの簡単接続を実現
- 採用実績11件



『ワンタッチで接続。』
AGF鋼管の接続作業を省力化。

施工性向上 安全性向上

AGF プッシュコネクト

「接続作業」を省力化。

『AGF-プッシュコネクト』は、AGF鋼管の接続部をソケット挿入としたことにより、ガイドシェルの力で接続することができます。

- 従来のネジ方式の作業に比べ、簡単に接続することができます。
- 構造上、緩みが発生しない構造となっています。
- ソケットを用いることで従来のネジ方式よりも高い接続強度を有します。

形状(mm)	規格	引張強度(kN)	重量(kg/m)
φ114.3, t=4.5	STK490	400	12.2
φ114.3, t=6.0	STK400	400	16.1

鋼管のねじ込み回転作業無し！
緩み防止のネジ部の叩き作業無し！

ソケット (イメージ図)

株式会社 ケー・エフ・シー

研究開発② i-Constructionへの試み

■ 防水シート溶着部の品質管理試験のICT化

SMERTチェッカー（防水シート溶着部品質管理試験のICT化）

- SMERTジャッキに続き、防水シート溶着部の加圧・負圧試験装置をICT化
- デジタル圧力計を採用することで自動で合否判定・黒板表示・帳票出力を可能
- 小型のバッテリー式エアポンプを採用することにより、省力化に貢献



■ MAIポンプ専用設計のモルタル流量計の開発

MAIポンプ専用モルタル流量計を開発中

- MAIポンプ専用設計のモルタル流量計で固練りのモルタルにも対応
- 先注入/後注入どちらの充填方法にも対応
- タブレットで計測画面の操作・確認が可能
- 計測精度±5%を確認



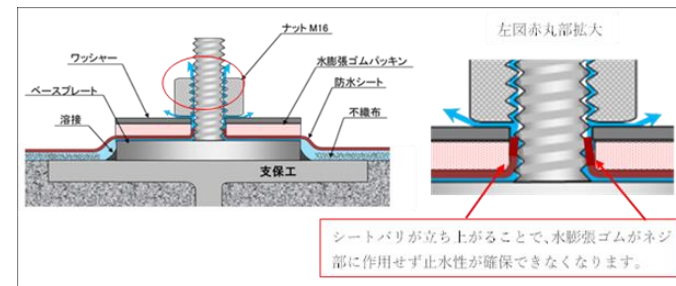
研究開発③ 非排水型トンネルの安全・品質向上を実現する新技術

- 鉄筋組立の作業性向上
- 防水シート貫通部の止水性確保
- 採用実績1件、採用予定2件

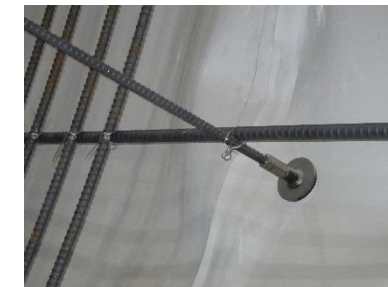
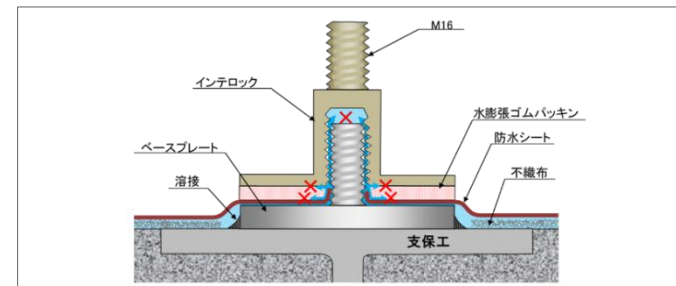
防水シート貫通部を完全止水する新技術『インテロック』

- 近年の研究により、貫通部の漏水メカニズムが概ね解明されました。インテロックはその漏水メカニズムに対応できる唯一の貫通型鉄筋金具です
- 安定性、壁面との垂直性に優れた貫通型を使用することにより、高水圧(0.8MPa以下)や、大断面トンネルなどにも対応できます
- 独自の止水システムにより0.8MPaまでの水圧にも対応できます

従来技術の
漏水メカニズム



新技術の止水原理



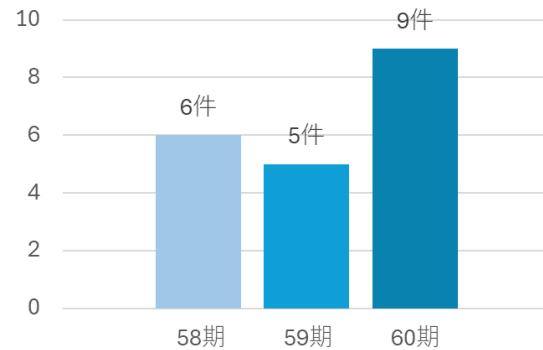
4. 経営戦略トピックス

新製品（インフラ維持管理 / 予防保全技術）

- アンカーチェッカー、ボルトテスター等を用いて全国のアンカーを調査

非破壊検査業務

- 非破壊調査物件数



アンカーチェッカー



ボルトテスター

ボルトテスターJIS取得

- JIS番号: JIS-Z2339「名称: 非破壊試験-ボルト結合部の機械インピーダンスの測定方法」として登録されました

- マンホール下柵と鉄蓋枠固定に推奨するアンカーを開発

ホーク・MGSアンカーの特徴

- 打込み式ではないため、マンホールの下柵に過度な衝撃を与えません
- 下柵界面との摩擦により、樹脂の硬化前でも次工程に移ることが可能です
- 最大引張荷重81.0kNの実験値を得ており、日本下水道協会のG4規格に適合する製品です



特長

Point1 エポキシ樹脂との併用により安定した引張耐力を確保できます。

Point2 アンカー本体と下柵との摩擦により、樹脂の硬化時間までに道路を解放することが可能です。

ホーク・MGSアンカー

NETIS登録(登録番号:CB-240010-A)

- 「接着剤併用の雌ねじ式回転施工アンカーであること。」が“新規性”として認められました
- 「マンホール母材を過度に傷つけることなく施工が可能。」ということが“期待される効果”として認められました

「SDGsに貢献」 環境・社会への取組

- 不織布に再生原料を使用した『ハイパネル SS エコシート』
- 立体網状体に再生原料を使用した『ハイパネル SP エコシート』
- いずれも約10%/m²のCO₂排出量を削減

- 不織布に再生原料を使用した『ハイパネル SS エコシート』
- 立体網状体に再生原料を使用した『ハイパネル SP エコシート』
- いずれも約10%/m²のCO₂排出量を削減

- 産業廃棄物のフライアッシュを再利用
- 従来の性能・作業性を維持
- CO₂排出量を3.4kg/袋削減

- 産業廃棄物のフライアッシュを再利用
- 従来の性能・作業性を維持
- CO₂排出量を3.4kg/袋削減

脱炭素社会の実現へ。 再生品 NATM 用防水シート。



FSC® 認証
再生材が含有率 10%以上、プラスティック
製が含有率 10%以上、森林
伐採 11% 削減



標準品



高断水タイプ



**CO₂
削減**



ハイパネル SS エコシート ハイパネル SP エコシート

防水シートの不織布・立体網状体に再生原料を使用すること により、CO₂削減を実現しました。

標準品		品名	防水シート厚み (mm)	不織布重量 (g/m ²)	立体網状体重量 (g/m ²)	単位面積当たり1㎡ CO ₂ 排出量 (kg/m ²)※1	CO ₂ 削減率(%) SS8030 法製
エコ タイ プ	標準品	SS8030-e	0.8	300	-	6.27	-
	高断水	SP8013/20-e	0.8	300	-	5.61	10.53
	高断水	SP8013/20-e	0.8	130	200	5.65	9.89

※1 CO₂排出量の算出は一般社団法人 日本電機工業会がJISMA LC-CO₂排出量算定用ツールを使用。
 原料の標準単価はPET S5/EVA 樹脂はメーカー提供単価を使用。その他はカーボンフットプリント制度認証事業 CO₂換算量共通標準
 値データベース Ver4.0の標準単価を使用。諸品と製品品質のエネルギーはワールドに実測するデータを使用

トンネル延長と CO₂削減量(断面:周長 25m)時

断面積	1m	10m	100m
約 10%削減	15.68kg	156.8kg	1568kg



株式会社 ケー・エフ・シー

[illegible]

地球環境にやさしい

KFC

SNエコモルタル

CO₂
削減

トンネル工事で使用する充填式ロックボルト用の
プレミックスモルタルです

1 二酸化炭素排出量削減

製造時に二酸化炭素を大量に排出するセメントの配合を減らし、従来のドライモルタルより二酸化炭素3.4kg/袋の削減を実現しました

2 産業廃棄物の再利用

産業廃棄物であるフライアッシュを再利用しています

3 MAIポンプでの施工に適した配合

MAIポンプで連続して圧送可能なプレミックスモルタルです

4 ポアホールから流出しにくい

モルタル充填後、ロックボルト挿入時に必要以上のモルタルが流出しにくい性状です

標準盛り上がり量	約10L/袋
----------	--------

社内規格

フロー値（ダブルフロー）	圧縮強度
150±20mm	10 N/mm ² 以上（1日）
180±20mm	10 N/mm ² 以上（3日）

35CE-F 506-2018

ダブルフロー試験機
JIS R 5201

※社内規格2018年6月現在のものであります。

【販売先】

KFC 株式会社 ケーエフエス

東京上木営業部 〒105-0011 東京都港区赤坂2丁目4番4号 芝パークビル6階11号

TEL:03(6453)4020 FAX:03(6453)4050

大阪上木営業部 〒526-0047 大阪府大阪市平野区西成田7丁目2番17号

TEL:06(8343)1884 FAX:06(8312)0755

「SDGsに貢献」 環境・社会への取組

- 廃棄物を少なくする新カートリッジを開発

無機系注入型アンカー『SRインジェクションカプセル』

- 特殊なカプセルを使用しているため、水量管理が不要です
- 専用ピストンを使用することにより、カートリッジを複数回使用可能となります
- 従来型であれば一回施工で廃棄していたカートリッジを複数回使用できます

KPC

無機系注入型アンカー

SRインジェクションカプセル

SRインジェクションカプセルは、特殊セメントを封入したカプセルを水で溶解することで適正な水比の充填モルタルが完成します。専用のカートリッジを使用することによって、廃棄物を少なくすることが出来る無機系注入型アンカーです。

高強さ 有効長700mmアンカー一般の強度に匹敵する以上の強度を発揮することが出来ます。

硬化性 特殊セメントを使用しているため、24時間で硬化します。

作業性 カプセルタイプなので、水を加えるだけで硬化が完了します。高強度が保証されます。

施工性 高強度を発揮しているため、掘削後、その位置にカプセルを挿入するだけで完了します。

耐腐食性 アンカー部の表面がアンカーで覆われていないため、腐食が心配ありません。

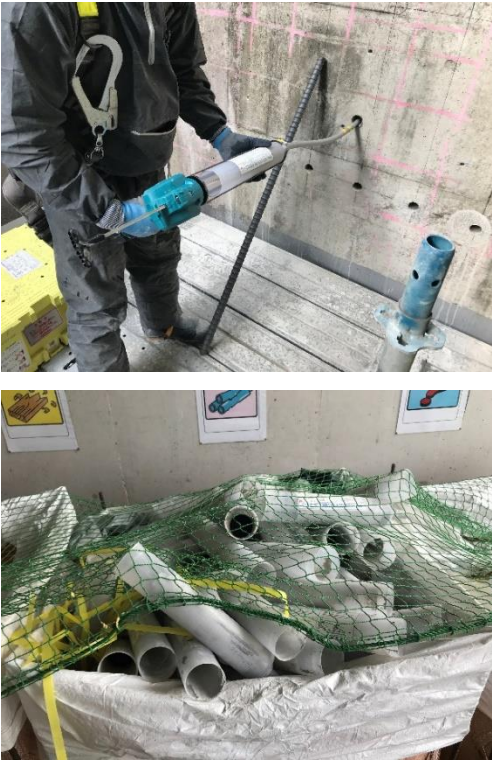
安全性 セメントモルタルを生成しているため、有害物質は発生しません。

施工仕様

SRインジェクションカプセル1個あたりの容積は約270ml

径×長さ	容積 (ml)	アンカー径 (mm)	平均強度 (N/mm ²)
M12	110~120	12	18
M16	200~210	16	17
M20	240~250	20	7
M22	260~270	22	8
M24	270~280	24	5
M27	310~320	27	4
M30	340~350	30	3
M32	370~380	32	2
M36	420~430	36	2
M40	460~470	40	2
M42	480~490	42	2
M45	490~500	45	1
M48	520~530	48	1
M50	540~550	50	1
M52	560~570	52	1
M55	580~590	55	1
M58	610~620	58	1
M60	630~640	60	1
M63	660~670	63	1
M65	680~690	65	1
M68	710~720	68	1
M70	730~740	70	1
M72	750~760	72	1
M75	780~790	75	1
M78	810~820	78	1
M80	830~840	80	1
M82	850~860	82	1
M85	880~890	85	1
M88	910~920	88	1
M90	930~940	90	1
M92	950~960	92	1
M95	980~990	95	1
M98	1010~1020	98	1
M100	1030~1040	100	1

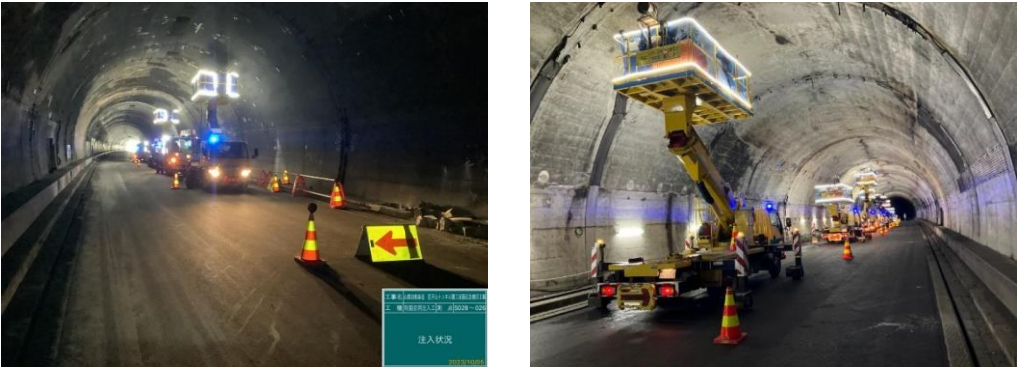
※強度は容積100%充填時の値です。実際の強度は施工条件により異なります。



- RBSフォーム工法を用いた「山陽自動車道 尼子山トンネル覆工背面応急復旧工事」にて、西日本高速道路株式会社から表彰

西日本高速道路株式会社より社長表彰

- 迅速な対応と高速道路の早期復旧への貢献を評価
- RBSフォーム工法は既設トンネルの覆工背面やコンクリート構造物裏側の空洞部に発泡ウレタン樹脂を注入する工法で、自由発泡により充填性・浸透性が高く、比重が軽いため覆工コンクリートへの過重負担が小さい工法



インフラ補修・補強への事業展開強化

■ タイ国インフラメンテナンス市場へ参入

海外インフラメンテナンス市場への製品販売展開

合併会社ASIAM Infra Co.,Ltd.(タイ)による市場開拓

海外ブランド『NINJA』シリーズのインフラ補修・補強事業展開

- 昨年度第2四半期に設立したインフラメンテナンス事業を行う合併会社ASIAM Infra Co.,Ltd.によるメンテナンス市場への販売展開
- 当期において、初となるNINJAシリーズ製品の一つであるNINJA MESHをタイ高速道路公社への販売・施工、今後の展開が期待される
- タイ運輸省道路局主催高速道路技術カンファレンス「iCHE2024」に出展



NINJA MESH



技術の力で人と未来を支える

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ケー・エフ・シー

電話:03-6402-8250/e-mail:kfc.ir@kfc-net.co.jp
(担当:佐竹)

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。